滿州日報

○報價目
毎月收取八角代賣所及送報人幷無分毫加增
○告白刊例
一行五號二十一字起碼登一日者毎行二角毎登十日者毎行一角五分登一月者毎行毎日一角登長年者價當面議
從減　毎張四百文

集市元豆六吊百至六吊三吊二百
高粱價錢五吊四百文至五吊
昨日共上車三十餘輛
今日共來七十餘輛
元豆六吊九百至六吊八百

一連紙　一連　一圓
一フールスカツプ　仝　四圓
一中判洋紙　仝　二圓
一半紙野紙　百枚　二十錢
一卷紙　四十枚續　十四錢

一椅子　三十圓以上
一簞笥　四圓五十錢以上十三圓五十錢
一卓子　六圓以上十二圓
一卓子掛
一厨房用戸棚　七圓五十錢以上十圓

一長火鉢　四圓以上
一箱火鉢　八圓以上十一圓五十錢
　二圓以上三圓五十錢
一宜德火鉢　一對　六圓以上九圓

廣告料　一ヶ月以內　長期連揭減價面議
發行所　清國營口中盛街　滿洲日報社（電話二九番）
Rates for Advertisement 20 cts. per line.
Payable in Advance. Postage Included.
The Manchuria Daily Report Office.
Newchwang.
Telephone No. 29.

特別廣告

▲資本金貳千四百萬圓
▲積立金一千零拾四萬圓

本店　横濱
支店出張所　神戸　東京　長崎　大阪
倫敦　里昂　紐育　桑港　布哇
孟買　香港　上海　天津　北京
大連　旅順　奉天　芝罘　鐵嶺

電話　十番　支配人室　百八番　事務室

横濱正金銀行牛莊支店

日本郵船株式會社
瀛船出帆廣告

長幸丸　三月廿八日着
山東丸　三月廿九日發　大沽、芝罘、門司、神戸行
相模丸　四月三日發　大沽、芝罘、仁川、釜山、長崎、門司、神戸行
横濱丸　四月五日發　大沽、芝罘、門司、神戸行

乘船切符發賣は出帆前三時間マデ
未明出帆ノ分ハ前日午後五時マデ

營口代理店　旗昌洋行（電話廿六番）

瀛船出帆廣告

日之出丸　長崎、門司、大連、營口間定期船　三月卅日入港　四月一日出帆
摩耶山丸　大阪、神戸、門司、大連、營口間定期船　三月卅日入港　四月四日出港
頼朝丸　同上
錦龍丸　芝罘、營口間定期船　三月卅日入港　四月四日出港

營口代理店　松茂洋行船舶部

清酒東自慢、白鹿
朝日ビール
孔雀印平野水、
上等石炭
以上極廉價を以て發賣致候間御用仰付被下度候也
元神廟街三百〇六號
松茂洋行商業部　河岸通（電話五十二番）

三井洋行

啓者本行開創在中外通商各埠已有年歷所售棉紗棉布火柴煤炭糖海參等各貨均皆物美價廉名馳遠近如蒙各商光顧請覩臨是荷者

●精製白砂糖新入荷物あり

倉庫部
今回倉庫所在地（青堆子精搗場上隣り河岸）の取扱所に電話を架設致し候間貨物の出入其他倉庫に關する一切の件は仝所へ御照會被下度願上候（電話二百二十八番）

宅合名會社分莊

本號前在營口東營元神廟街自造日本酒澤龜印幷其名譽已傳播於滿洲全地矣今又擬在西營子老爺閣街同盛德院內分設支店一所發賣綿絲粗布火柴絲布絨衣荷標布手巾花巾東洋綵子洋胰鹼表貨物俱全而價值尤格外從廉且貴客賜顧時另派有一華人宋厚田氏細心接待以便商議一切凡中外士商賜顧者請辱臨爲幸

運輸部
運般特得官准開設火車轉運行於東西兩店幷牛家屯分此殊以李吉甫田彫超等之華人敏活細心以責任欲膺事與本業賜顧幸甚

總司理人田中賴之助謹白　電話　東店五五　西店一公二

東盛和

本號在營口創設二十餘年專辦出口餅油豆各等土貨進口棉紗布疋火柴洋麵糖煤雜貨發行並滙兌銀錢兼代客經理買賣租船裝運事宜營口廣東兩處自建碼頭能泊輪船二艘棧房地方寬大凡泊輪船裝卸貨物極爲利便圍貯油餅豆米麥更爲合宜衆商有輪船一艘名城多利能載重二萬担如有欲租船運貨及存棧貨物水脚租格外從廉　貴客賜顧請到小號面議是荷
總司理人葉亮卿謹白

東永茂

機器油房在營口創辦油搾生意多年以本營業非祇做油房壹事及經理買賣雜貨布疋等物幷代客莊運汽船配載事宜三井行與本店素稱交厚並與各南北客經理有年誠信相孚遐邇知之
正理事潘玉田　副理事金德魁　設在營口西北街路南

西義順

本號開設營口西街老爺閣前路南警乙第五號專管裝卸輪船上下各貨照料穩妥堆棧寬大凡中外士商賜顧者請認明招牌決不致悞
本主人敬啓

仁裕號

保裝運各國火輪船生意兼賣各樹洋什貨糧石等此佈
營口西大廟街路北警乙第十三號

代代木烟公司

本行專售　日本官造紙烟　星象牌（斯達）櫻花牌（撒科）百合花牌（利利）均已馳名內外玆特選上等烟料加工精製雙仙鶴牌（隆沽來福）清香撲鼻佳美適口而價値極廉　諸尊欲請可向敝行或請至本行公司代理店西營口大德元採買庶不致誤謹此廣告

永順洋行

本行在東京開設三百餘年專辦布疋此次得大日本政府特許般運各色布疋手巾綢緞綿子法蘭絨等貨來埠發售顏色鮮明俱照中國土布家機自染決不退色價亦格外公道官商光顧請到本行面議
西北街　東櫃（電話一九十五番）
西義順棧內　西櫃（電話架設中）

三井洋行經理
明治火險公司

本公司開立已久分行上海、香港、天津、各埠方中外馳名一核章程仿英例一式遇事克已秉公以廣招徠有願保火險者請至本行面議（電話六十六番）

㊂丸三洋行分莊

啓者本行開設於元神廟街精工自造羊肚手巾東洋緊身洋式襪子以及各樣雜貨俱全無不精美價値格外從廉賜顧者請光臨本行面閲是幸
丸三洋行分莊謹啓

生徒募集

今般本院に於て在留邦人子弟の爲め尋常小學部を設置し嚢に督促書を差出したるも尚遺漏の分もある可くに付特に廣告候條學齡者は至急本院へ照合し入學手續を爲すへし

營口瀛華實學院

營口瀛華實學院招入學生

本學院肄業諸生頗着成效惟是從去歲常有陸續來學者本學院雖亦收入然班次不齊以致授課之時諸多未便玆因添設樓宇地勢寬宏學生宿舍各種器具無一不備現擬招入學生俟額數充足即行擇期一律入學有志願學者速到本學院報名毎日上午九點鐘至下午兩點過期不候特白

營口瀛華實學院

啓者本行開設在東營口輪船代理店海上火險公司及報客稅已有年矣今承關東總督府之特准開設東清鐵路公司運送貨物自牛家屯大連至昌圖府均有分棧大連鐵嶺另有分行幷各有中國人辦事今又設理雜貨生意專辦上等石炭棉花火柴洋布旭牌卑酒日本清酒一概俱全另有清國人執事如蒙中外士商光顧請來元神廟街爲荷

本行汽船　摩耶山丸　頼朝丸　專往東洋各埠

松茂洋行（電話五十二番）

聲明丟失滙票

啓者於清歷正月二十二日有營口永同和在阿什河買和順昌匯票兩張計該號昌字十七號永記名下平銀五仟叁百五拾兩整又拾八號功記名下平銀二千六百七十五兩整均係二月二十五日准期營口付銀此票係於正月二十二日由阿着合盛信局梢營不料路中丟失今已向該營分號掛號說明此二票無論失落何人之手作爲廢紙望各中外官商切勿收用特此登報以爲聲明
清歷二月二十四日
永同和主人啓

失票聲明

啓者本號於本月十四日接省城來電云有阿什河寶泉長在阿由和順昌匯妥長記名下平銀一千零柒拾兩整係昌字二十八號至營交與本號代取此票托友携營不意行至奉天車站偶逢匪人竟設僞局詐去當即寄電之後本匯主業已來營即至同興宏內寓和順昌該二家自昔頗有相契刻間已將此匯款如數使出倘有官商拾得此票者即作廢紙特此聲明
二月廿一日恒增通主人啓

飯塚工程局　材料出售

啓者本局今特與日本北海道天鹽木料公司商訂以日本輪船運到各種木料品質精良久已馳名四遠以之架造屋宅及製各色傢具無不合宜且價値格外從廉克已凡中外士商賜顧者請來本埠東營口元神廟街本工程局面議不悞此本十新到各種木料東洋炸子貨眞價實以應各主顧局急之需
國本主人啓

周　東清鐵道　裕和盛運輸局（電話八十一號）
在東營口西北街旗昌洋行對門

啓者本號向在日本長崎開設數十年幷分店在朝鮮國漢城仁川木浦旅順烟臺營口鐵嶺等處專賣中外雜貨疋頭食物器具酒烟兼代客報關裝船裝車今又承辦東清鐵道運輸局代客裝運貨物各車站均設分局格外周到不悞主顧
總司理主人　周鶴雲
運輸部主任　高濱麟太郎
謹啓

營口商業學校招入學生

宗旨　造成辦公實業家
學科　修身、漢文、詞章、習字、算術、圖書、地理、歷史、理化、商律、簿記、理財、商品、商業學、日語、英語、體操
學額　五十名
資格　十五歲以上文理明通者
學費　特免惟寄宿生自備饌資餘皆本校墊辦
入學　陰曆三月初一日
夜班　專爲有志向學而白晝忙於謀生者計毎晚兩點鐘之功課授以漢文算術商業學日語以一年爲限
○欲覽各樣詳細章程可到本校索閲

本學校由客春開學以來肄業諸生頗著成効玆因添建樓宇增設講堂應需器具種々皆備現擬招入第二次學生

丸重洋行　貨物運輸

啓者本行前在營口壟實雜貨已有年今經關東總督府之特准開辦東清鐵路運貨不論貨種多少以安全迅速誠實廉値籌貨主之利便爲旨如蒙中外士商光顧請來營口西北街本洋行或牛家屯火車站構內分莊面議不悞
電話　營口拾八番　牛家屯四拾六番

聲明假冒

協泰昌與記綵號大有昌洋雜貨號外面並無作保等情近因同字號最多恐有假冒本號圖章特此聲明
本號主人白

上海　中井洋行
專運日本各式紙料

本行開設已歷多年曾與日本製造名廠訂有專銷之約凡新聞紙料印書精各式紙料莊票包棉紗料草板紙張日本機器連史紙五彩印字連墨其他各件紙料一切統由本行出售貴客惠顧請至江西路五十一號門牌可也
中井洋行

營口青堆子
自造煉瓦●瓦並に各種石材販賣
加州組（電話八十六番）

今回弊店に於て明治火災保險株式會社代理店引受候に付き建築物、商品、家具、什器、一切の火災保險精々御便利に取計可申御用被仰付度願上候
三井物産合名會社　牛莊支店（電話六十六番）

●雜貨卸小賣商　附日用食料品
●菓子製造販賣商
●委托販賣商
●土木建築受負業
●滊車積運送業

新民府孫家街
東洋號

太古輪船公司

啓者本公司自派溫州牛莊兩輪專走營口登州龍口一往一來接續不斷搭客配貨均由本行碼頭上落甚屬利便水脚乘來公平船上應酬搭客無不週到歷經數年遠近馳名知者稱便用登報端以期廣告
營口　太古輪船公司

東京電報

●**待從武官の差遣**　伊藤侍從武官震災地視察の爲め差遣せられ震災救恤院を設立する計畫あり

●**露國撤退兵寄港**　露國義勇艦隊汽船タムボーフ號はヲデツサに送還すべき滿洲撤退兵を乘せ長崎に寄港せり今後當地を經由して輸送せらるべき撤退兵は十萬人以上なるべしと傳へらる

●**電車賃値上の不成功**　東京各電車會社の決議に成る乘車賃値上の請願は今回却下せられたり

●**牧野公使の歸朝**　牧野公使二十五日歸朝同日直に入省せり追て文相の椅子を占むべし

●**都筑派と六三案**　都筑一派より六三案修正案の提出を見るに至らんと傳へらる

●**長谷川大將上京**　長谷川大將は大觀兵式參列の爲め近々上京の筈なり

●**英大將の箱根行**　來遊中の英國海軍大將ノーウエル氏は箱根に向へり

●**兵站司令官の自殺**　第五師團第三兵站司令官湯川中佐廣島客舍に於て自殺せり

●**英國大使歸國說**　英國大使マクドナルド氏は來る六月三日歸國に途の上るへしと傳へらる

●**滿洲經營委員會**　二十三日夕首相邸に寺内陸相阪谷藏相兒玉大將松尾日銀總裁高橋正金頭取珍田次官山座局長等參集滿洲經營に要する財源問題に就き大體の方針を決定せりと

●**滿洲博覽會後聞**　滿洲博覽會に就て大阪商業會議所の決議に依れは其開會期を八月一日より向ふ三ケ月間とし出品申込は六月一日より同三十日迄とすると定めたりと

●**東宮殿下行啓**　東宮殿下四月五六日頃東京御出發呉軍港へ行啓生駒艦進水式に御臨場遊はさるへし

●**領事選任の進行**　滿洲各地の領事官人選は着々進行し略は決定するに至れり

（以上三月二十五日發電）

北京電報

●**獨乙公使の參內**　北京駐劄獨公使ムンム男は二十三日參內兩皇に謁見し御暇乞申上けたり

●**肅親王出發期**　肅親王は蒙古地方巡視の爲め四月を以て出發の途に上るへし

●**新奉線と袁世凱**　新民奉天兩府間の鐵道線路調査終りたるを以て直督袁世凱氏は速に日本と交渉に着手すへきことを商部に建議せり

（以上三月二十五日發電）

倫敦電報

●**露國の所得稅法發布**　露國政府は近々所得稅法を發布すべし

●**コロンビヤ大學と蹴鞠**　米國コロムビヤ大學は米國ラグビー式蹴鞠（フートボール）を米國諸大學に採用せむが爲めにラグビー會の助力を求めつゝあり

●**革命騒動の死傷者**　露國政府の報告に據れば昨一千九百〇五年に於ける同國の革命騒動の爲めに死者一万四千百二十八人負傷者一万九千五百二十四名を生じたりと云ふ

●**英國の回航員歡迎**　新造戰艦回航の爲めに渡英せる日本水兵は倫敦アルバート船渠に到着し來集人より熱心なる歡迎を受け彼我互に懇親せり

（以上三月二十五日發電）

●**日本水兵の訪問**　日本水兵の一行は昨日グリーンウイツチ病院を訪問せり

（三月二十六日發電）

雜報

●**大連通信**（廿五日發）

▲山本大將の市中巡覽　山本海軍大將は昨日上陸市中巡覽、石塚民政長官々邸にて晝餐を饗さる、午後滿洲號に歸艦、今朝同艦にて旅順に回送さる、勿論佐世保より隨從したる水雷一艇隊も同行。

▲松永中將の凱旋　松永陸軍中將は山崎副官、遠藤一等軍醫令息中尉及從卒二名と共に病院船小雛丸に乘込み午後三時解纜凱旋、陸軍大臣より見舞として來れる東京衛戍病院長たる近藤二等軍醫正も同船歸東さる

▲大連芝罘間の航業　芝罘大連間を航海せる瀛船の數廿余隻あり皆日本の汽船たり（內一隻支那人持船）、現に角芝罘大連間の海上權は日本瀛船の全く占領する所に係る、舊正月二十日以後より乘客最も多く一隻六七百人より八九百人迄を搭乘せしめたることあり、目下の所一隻の入港船對乘客の平均數二百人支那人一人の運賃二圓の規定なるも目今競爭の結果一圓六七十錢位となれり、日本人は四圓なり、芝罘對安東縣其他の航海開始せらるゝの曉は大連芝罘間の船隻大に減すべしとの豫想要するに旅順より安東縣迄の沿岸航は日本船の獨占に歸す、唯遺憾なるは其日本汽船の多くは支那人のチャーターする所に係り、進んで日本商人の掌中に此航海權を得る易々たる事ならむに、是各船主合同共同計算として此航海に從はんか將來有望なるものあるを信ず、且之れを疑はさる也

▲定期航海の開始　當地の浪速町の山田組にては當大連と柳樹屯の定期航海を始めたり、進んで當地貔子窩間の定期航をも開始する筈として目下航路其他調査中にあり

▲江副の一週年大賣出　官煙口付煙艸の滿洲一手販賣店たる當地の江副は開業一週年に相當する故を以て景品添附の大賣出を本日より執行、四月十五日迄開くに江副洋行支店は當地と貴地是ち營口と安東縣と鐵嶺とにあり、其他代理店及び特約店としては旅順、遼陽、新民廳、蓋平金州、奉天、昌圖等にあり、更らに不日山海關錦州等に特約店新設の筈昨年三月開店以來八月に到りては其賣高三倍となり、更らに十一月に及んでは五倍となれり、而して軍隊引上後に於て賣行大に減すべしと豫想し居るに否らず依然從前の比例を崩さず察するに近來ボツ〳〵土人の口付を需要せる者增加するに依るか將た如何、近來敷島等の賣行漸次增加しつゝあり、人の贅澤になり行を表すべきか、官煙刻煙艸の賣行は口付全体の二割に相當するに過ぎずと（在大連安齋生）

●**昨今の牛家屯停車場**　軍隊輸送の終了後は滊車の輸送力大に增加せしに其後は輸送貨物餘り多からされば昨今停車場は寧ろ寂寞を示し居れりと云ふ尚は業務取扱上に於ける驛員等の不公平不親切は一時に比較すれば大分減少せしも尚は非難す可き點少々に非すとなり驛長首め驛員共は願て一層注意すべきなり因に同驛の乘降客に依りて衣食する所の若松屋は昨今顧客に對して頗る不親切なるのみならず宿泊料など時に不當の請求を敢てして憚らずと云ふ亦た之れ願て大に改良せさる可らず

▲鐵嶺行婦人數　昨今營口より各方面に向け旅行を企る婦人は毎日僅々七名位の者なるか其の大部分は鉄嶺行を目的とする者なりと云ふ尚は鐵嶺に婦人の居住を許可せられて以來今日迄の間に營口より鐵嶺を目的に發足せし婦人の總數は六十名以上に及ぶとなり

▲昨今の旅行者　昨今は各地に旅行する者少々減少せし如く軍政署に屆出る者の數は毎日約六十名位なりと云ふ尚は旅行者の行先は鐵嶺最も多く次は奉天及び遼陽にて更に其次か大連なりとなり

▲谷口工學士の歸營　兼て軍政署の用務を帶びて上京中なりし谷口技師は一昨日歸營せり

▲消防夫の盡力と寄附金　一昨夜の火災が我が消防夫の非常の盡力に依り幸に類燒を防ぐを得て大事に至らさりしは在住民一般の甚た喜びたる所なるか三井洋行の並の東永茂は特に其の盡力を德とし相談の上五百圓を消防組に寄附せりと云ふ尚は以上の寄附金は一部を以て一同が慰勞の費に充て其の殘部は基本金にする消防組の意向なりと聞く

●**商況**　昨今に於ける邦人側の商況を聞くに既に遼河も解氷して汽船も出入するに至りたれば多少は景氣を恢復せしかと思ひの外に諸品共に依然として沈靜の裏に在りとなり但し雜貨品中支那人向きの品物は漸次再び好況を恢復するの氣勢ありと云ふ

●**人物月旦**　覆面郎

中村錠太郎君（下の下）

中村錠太郎氏は先天的銀行家也凡そ銀行家に必要なる條件は凡て有せさる無きと共に銀行家に大切なる少くも其の有るを以て利益とする所の風采態度音聲迄も兼て之を有する所の誂へ向きの銀行家也且つ夫れ分を守りて迷はす業に勵みて嗜味を覺へ野心無く惡僻無く則ち其消極的必要條件の末節に至る迄も悉く具へて欠かざる良好稀有なる銀行家たるに於て彼を行員に算入する所の正金銀行も亦た甚た仕合せなりと謂はさる能はす彼に取りて正金銀行が最善の勤口たると共に正金銀行に於ても彼は行員中當に最良の一人に數へらる者ならすんはあらす中村氏が正金銀行に對する働き振りを觀るに其忠實なる寧ろ驚くに値する者あり假令は貨幣の交換歩合に於て爲替の手數料に於て不廉殆んと其極度に達すは於是乎種々の非難無からさるを得す然れとも正金銀行の利益を思ふて自ら怨府となり敢て彼辭せす甘んして以て其業に安んす蓋し彼は過に於て正金銀行に對し特別に忠實なりし者而して去現在に於ても亦た然り更に將來に於ても全く然るへきを疑はす彼は實に得易からさる正金銀行の忠僕也彼を得たる正金銀行の仕合せも少々に非す

中村錠太郎氏か自ら願て其長所に從ひたると共に選ふに正金銀行を以てしたるは一方に於て自分を知り他方に於て銀行を知りたる者而して正金銀行が彼を採用し彼を優待するも己を知ると共に彼を知る者と爲さゝる可らす想ふに中村錠太郎氏は正金銀行を以て甚た得とする者にして正金銀行も亦た中村錠太郎氏を以て頗る重方と爲す者たらさる可らす彼は正金銀行に非常に忠實に正金銀行は彼に非常に親切なる抑も故あるかな世に或は彼を離する者無きに非す彼を離するは知らす彼に求る所あるが爲に非る無き乎彼に求るは可也然れとも求るに正金銀行の不利益を以てするは不可也、彼ば先天的銀行家として銀行事業を離れて長所の其他に認る者の無きと共に正金銀行を去りて他に良好の勤口を見さるなり彼に於て銀行業務が最善の職業なると同時に正金銀行は彼に取りては最上の勤口也銀行業務が彼の爲に發達を與へ立身を授くる者とせは正金銀行は彼の爲に幸福を與へ仕合せを授くる者也彼の智識は此邊の事情を了解するに不足無きと共に其分に安んする彼の性質は之を守りて誤り無からしめさるを得す今夫れ正金銀行の不利益を以て則ち換言すれば正金銀行事務に伴ふ一般公衆の利益を以て彼に求るとも彼れたる豈に容る事を肯せんや顧ふに既往二十餘年間の彼か銀行生活は正金銀行に對する忠勤ならさりしとせす唯た夫れ十年一日の如く正金銀行に對し忠勤を勵みて怠らず彼は元來銀行業者として稀有の好人物とす加ふるに斯の殊勝の精神を有する者蓋し正金銀行たる者愈々以て彼を重方として重用せさるを得す正金銀行に於て愈々重用し優偶すれは彼は益々忠勤を勵まさる能はす彼に於て益々忠勤を勵めは正金銀行は更に彼を重用し優偶せさる可らす即ち既往に於ける二十餘年間は更に彼と正金と斯の如き好意の交換に經過せる者たるを疑はす彼は飽く迄も正金銀行の忠僕也而して正金銀行は又た飽く迄も彼の保護者也知らす之れ正金銀行の利益乎抑も亦た中村錠太郎君の利益乎彼を離するは可也、彼に求るは非也、彼に求るは可也、正金銀行の不利益に付て求るは不可也、正金銀行の不利益に付て求るは可也、之を彼に求るは不可也

中村錠太郎氏は今日に於ては斯界の大立者たると同時に當に復た在住同胞中の大立者に屈指せらるゝの一人也於是乎彼の批評は單に其本業たる銀行業務の是非善惡に止らす則ち職掌以外に亘る所の非難も亦た甚た少からじ抑も彼に於て取る所は正直、の點に在り其感す可き點は熱心なるに在り温順にして正直熱心にして着實なるは眞に其美風とす唯た夫れ温順にして正直、熱心にして着實也蓋し適當なる銀行家たる所以にして又た即ち今日の成功ある所以ならすとせす彼は唯た銀行家也先天的の銀行家也中村錠太郎の五字か至る所に於て話頭に上り彼の顏か又た總ゆる宴席や集會の席上に於て觀せらるゝの故を以て輕卒に判斷して彼か何事でも爲し得る如くに若くは其手腕は何業にも堪ゆるか如くに想像するは誤解も亦た甚たし彼か銀行界以外にも頻にモデル者は銀行業以外に於ても靈腕を有するか爲に非す銀行界に於てモデルか爲のみ銀行界の立者なるか故ならさる可らす先的天銀行家の七字は最も能く彼の人物を説明する者と謂ふに足る彼に政治家や有志家の技量や嗜好ありとすれは則ち完するに先天的の文字を以てするは當らさるなり彼は唯た銀行家として最良の人物のみ奔走に慣れす誘説に富ます覇氣に乏く辨難に長せす膽畧亦た固より觀るに足る者無し單だ温順にして正直に着實にして熱心なるは誠に彼の彼れたる所以とす彼に求るに銀行に關するの事を以てするは可也彼に望むに出納に係る事業を以てするは不可ならす漠然として在住同胞中の大立者の一人なるか故に輕々以て彼を速量し何事でも相談するに足る如く何業でも成し遂る如くに信頼するは甚た否也唯た夫れ彼は銀行家也先天的の銀行家也銀行家として寸毫の缺點を有せさると共に銀行以外には殆んと長所を有せす任するに政治家を以てし乃至有志家を以てし即ち不平を云ふは不平を云ふに非すして寧ろ愚痴をコボス者のみ彼は爲に其價値を減する者に非す會々先天的銀行家たるを反證せらるゝ者にして彼に於ては反つて仕合せならすとせし抑も銀行業は中村錠太郎氏の爲には最良の職業也而して正金銀行は彼の爲には最上の勤口也中村錠太郎氏か銀行業に從事し正金銀行に勤務するは其智を示す者なると共に銀行家として非難すへきなきは職業に堪能なる者にして而して正金銀行に酬ゆるの深きは主家に忠實なる者ならさるへからす之を中村錠太郎一個の立場より觀察すれは今日の彼は寔に理想の境涯に在る者と謂ふて可也世上紛々たる非難は畢竟彼か賞賛の辭ならしとせし其非難愈々甚くして彼は銀行家として愈々其光彩を發輝し正金銀行の忠僕として益々其價値を高むるなり寧ろ賀すへからすや雖然中村錠太郎氏は銀行家たると共に又た在住同胞の一人也正金銀行の行員たると共に又た帝國臣民の一人也銀行家として腕前を發揮すると同時に在住民として腕前を發輝せさる能はす正金銀行に忠勤を勵むと同時に帝國に忠勤を勵まさる可らす夫れ然り若し則ち今日に於て能事足れりと爲し今日を觀て滿足を覺る如けれは彼は恐くは一身あるを知りて社會あるを知らさる也而して正金銀行あるを知りて國家あるを知らさる者と謂はさるを得す然れとも忠臣は孝子の門より出す職業に熱心に主家に忠實なる彼は蓋し又た社界にも親切に國家にも忠實なるは疑ひなし唯た知らす彼は將來に於て如何にして社會に酬び國家に報せんとはなす想ふに正金銀行牛莊支店は其地利の上に於て資金の豐富なる上に於て將た今日の勢力に於て眞に滿洲經營上の一大利器也願れは彼は牛莊支店の主任に在る者とす則ち彼か國家社會に酬ゆるに於て正金銀行の善用は其の効力最も顯著なりとせさるを得す蓋し正金銀行牛莊支店の善用は彼か邦家社會に酬る上に於て最上の方法也況んや銀行業以外に於て特別の長技無き彼に於てをや正金銀行牛莊支店の善用は又た其唯一の方法と謂はさる可らす彼は果して社會の爲に邦家の爲に有利の方面に牛莊支店を運用する者なるや否や將た能ふるか否か彼に於て幸に然るを得は彼は善良なる銀行家たると共に偉大の銀行家也正金銀行の忠僕なると共に併せて又た社會邦家の忠僕也彼の能事か斯の如き位置に達して初て終るとせは彼の將來も中々多忙ならすや

▲正誤　人物月旦（下の上）六行目「勤務する三年は勤務する一年」の二十一行目熱心家に付ては「更に熱心家に付ては」の、二十四行目中村錠太郎氏の熱心は「中村錠太郎氏の正直と熱心は」の尙全行の異論無き所は「異論無き所也」の四十七行目豫言せる者は「豫言する者」の六十八行目動かりさしは「動かざるは」の誤植に付き訂正す

投書かご

▲理髮店に警告す　軍票騰貴し金票より高き事二厘五毛と上放れ爲に物價は日一日と下落し就中家賃の如きは昨年より殆ど半額となり土地に依りては三分の一に引下げたる今日に係らず獨り理髮店に至つては戰爭時代と同樣六十錢を平氣の平左で客に請求すとは抑も何たる狂氣何たる突飛の沙汰なるや在留民は勿論他より來營せる人々は實に營口の理髮賃を聞いて驚かざる者なし今假に滿洲內地及び大連等と比較せんに店に依りて多少の差額あるも遼陽奉天の如きは高等理髮店は三十錢乃至四十錢大連は二十錢にして皆相當の家屋を構へ居れり顧みて營口理髮店の現狀を見るに總じて家屋は豕小屋同樣にして眞の理髮師と名づくる者幾人あるなし然るに圖々しくも從前通り六十錢と堂々店頭に掲示し敢て憚らざるに至つては鐵面皮もこゝに至つては實に言語同斷なり敢て問ふ營口理髮同業組合なる者は何の爲めの組合なるや吾人は大に了解に苦む所なり眼ある理髮店は宜しくかゝる無謀の組合を脫し時運に相當する賃銀迄值下を斷行し何ぞ千客萬來を策せざる敢て警告す

大車

▲上行車時刻表

車站名	開 午點分	到 午點分
新民屯至溝邦子	上 六、〇〇	上 九、五七
營口至山海關	上 八、二〇	下 六、〇〇

▲下行車時刻表

車站名	開 午點分	到 午點分
北京至山海關	上 八、〇〇	下 六、二〇

税關手續
一、船舶輸出入荷物取扱

日本建家屋

諸鐵工製作（營口）

天

營口地方天氣豫報　自三月廿四日午後六時至三月廿五日午後六時

小説 新作小説 おとし胤（二十二）　德田秋聲

何か用があッて、隣家の茂左衛門の婆樣といふ世話好が、頻に家中をうろつき廻ッて、光を探してゐた。眼を皿のやうにして、

「はてな。合點の行かねえこッた。孃樣何處さ行がしたゃかな……たッた今其處に見えたッけが、此の騷の中を何處さ行がしたもんだかな。」

と不思議さうに、首を振り〱、彼の室此の室と探し廻ッてゐた。雖然何うしても見當らぬ。

それと聞いて驚いたのは合田である。眼の色を變えて、老婆の許へ來て、

「何んだ、孃さんが見えない。」

「はい、見えねえでござりますよ。」

「見えないと謂ッて、それで濟まんぢやないか。一体何處へゐらッしやッたのだ。」

「それがさ、解らねえでござりますよ。たッた今其處に見ゑたゞけれど………」

「たッた今、其處に見えたでは解らんぢやないか。何處へ行ッたんだ、何處へ？」と合田は、婆樣の知ッたことのやうに聲を荒くして「もう人力車も來てゐるといふのに困るぢやないか。お前等が付いて置ッて不注意極まるこッた。」

此う極付けられては、婆樣も默ッて居らぬ。田舍者の癖とて頑固に、

「其樣なてと謂ッたッて、私の知ッたことでねゑだ。始終傍に付いて居られるではなしさ。馬鹿々々しい！」

「始終傍に付いて居らんと謂ッて、何處へ行ッたか位解りさうなもんぢやないか。」

「解りましねえ。」

と素ッ氣が無い。

そこで合田は、憤々しながら、寛齊老人の許へ駈付けた。

「また孃さんがお見ゑになさらんさうで。」

「左樣か。」と老人は、落着濟まして「何有直に戻りませう。大方近所へ暇乞にでも行ッたのでございませう。」

「併し時間が迫ッて來まするで………」と謂ッて、合田はまた時計を出して見て「こりやもう十一時半になりまする。幾ら人力車で行くと謂ッても、石高の道を三里も行くのですから、もう徐々出掛けなければなりませんが………」

「左樣さな。」

と要領を得ぬ。其の眼を見ると、少し濕むでゐる。落着いてゐても、さしもの老人も愛惜の情に耐えぬと見えて、悄れ返ッてゐるのであッた。

合田は、これに對して少しも心を動かさぬ。たゞ光の姿の見えぬのに氣を揉みきッてゐるのであッた。

彼は、何んでも事は迅速に運ぶに限るとして、策畧を以て老人を欺き、其の出發を急いだのである。彼は律義な老人の舊藩主の情誼を重じるに乘じて、君公風を吹かせて巧く策畧の圖星を當てたのであッた。そして半ば強面に即日出發することに定めて了ッた。而も小人の癖として、種々の疑惑を夾むで、何んでも邪魔の入らぬうちに、疾く此の村を去らうとして妄と氣を急いてゐるのであッた。

然るに今光の姿が見えぬ。疑惑の念が勃然と湧いて、何うして落着いてゐられるもので無い。

「此の老人め、口では何氣ないことを謂ッてゐながら、御本尊を何處へか隱して口を拭ってゐるのぢやないか。」

色眼鏡を掛けて見れば、人の顔といふものは紅くも青くも見えるのだ。合田は、寛齊老人に對して、實に怪しからぬ疑を抱いてゐるのであった。

彼是してゐるうちに、鷄の聲一としきり、村の西東に起つて、樹の影は恐ろしく短かくなつた。もう正午になつたのである。雖然光は歸つて來ない。此うなつては有繋に老人も落着いて居られぬ。

●骨董錄

明治廿八年我國が臺灣占領の當初予は臺北に居つた、其頃同地の風呂屋へ行くと到る所沃度ホルムの臭氣紛々として胸を惡くせぬ事はなかつた、けれども其後五六箇月程經過すると何時とはなしに入浴の度毎に此臭氣を聞くことは無くなつた、是れは戰爭時代就中終局時代には壯丁等が花柳病に罹ることの如何に多きかを徴證するのである、然るに予は昨年夏初めて營口へ來り入浴した時に臺北に於けるが如き沃度ホルムの臭氣を感じなかつた、是に於て予は是れ今回の戰役には彼の軍夫なる者を使役することの究めて尠かりし結果ならんと默考し兎に角花柳病患者の寡少なるは甚だ結搆な事として心窃かに悦んだ、所が滿洲日報紙上の報道する所に據て見ると我營口同胞患者の中花柳病者が其多數を占めて居る樣である、尤も内地でも近來花柳病の趨勢を見るに年一年に猖獗を逞ふし十年前に比すれば殆んど十倍以上の患者數に達したといふ何んと寒心の至りならずや、全体花柳病は或る醫博士の說く所を聞くに幾世紀の後には世界人類を全滅すべき最も獰猛なる最も傳播力の凄まじき恐るべき惡質の病氣で此の位人世活力の元氣を銷沈せしむる毒惡の病氣はないと云ふことだ人は肺結核とかペストとか、虎列剌とか聞けば直ちに死と云ふことを連想する程に恐るゝから隨つて自然豫防や治療の方法等も周到綿密に行はるれど、花柳病と來ては平然として恰も通常の胃寒位と同一視して居る位かと思はるゝ程である、此風は今日醫術上の治療が進歩すれば進歩する程度に隨つて益甚しくなりはせぬのかと予は思ふのである、何故なれば予が少壯の頃には漢醫八分蘭科醫即ち今日の西洋醫二分位の時代で治療の方法抔は今日に比すれば實に天淵の違であつたが偶ゝ脩黌中抔に花柳病に罹る者があると隨分驚き恐れ且つ當人は非常に恥ぢたものだ隨つて花柳患者が今日の樣に澤山はなかつた這は餘計の話だが序だから書くが、江戸では疥癬より黴毒を恐れ上方では黴毒より疥癬を恐ると是れは當時一般の輿論の樣だつたが果して京都には江戸に比すれば澤山の黴毒患者があつた樣だ、話がチト方角を外づれたが偖上陳の通り今日の人は治療の巧妙に依頼する氣味かあつて益ゝ花柳病を輕々視する傾がある是れが此恐るへき病毒を蔓延せしむる大源因だから獨り營口在留同胞諸君のみならず一般に花柳病は人類を根絶すべき最惡の病毒なることを服膺し就中少壯諸君等は劣等なる獸慾の爲めに彼の魔窟怪巣に陥らんとする時反省一番勇猛なる克己心を振起して此病毒に接觸せられざらんことこそ予が國家の爲め否進んでは世界の爲めに深く諸君に希望する所である（蒼然生）

●營口奇觀　營口の藝者町へ行くと敷石の代りにビール瓶を裏向けて奇麗に敷詰めてある丁度寄木張りのやうに……此ビール瓶は即ち戰爭に敵の一壘を拔き敵の一陣地を奪ふ毎にポンと拔いで萬歳を三呼したる其殘骸である殘骸といへば語弊があるかも知れぬが此好個の紀念物其紀念物を斯くも到る處に敷き詰めてあるのは當時如何に一戰勝毎に酒を浴びたとが多かつたかといふとが證せらるゝ是れはナント日本内地で見ると出來ない現象で營口の一奇觀に數ふべきものでは無いか（〇〇生投）

廣告

告示

三月廿二日第四回懸賞捕鼠抽籤執行したるに結果當籤番號左の如し

一、當籤者賞金受領に付左の通り心得可し

一、當籤者は四月五日迄に衛生局に至り當籤證と引替へ現金を受領す可し

二、四月五日を經過するも尚賞金受領の爲め衛生局に至らさるものは其當籤効力は消滅す

三、賞金額

一等　銀五十圓　二等　銀十圓

三等　銀二圓　四等　銀一圓

三月廿二日第四回抽籤懸賞捕鼠號章程列左

一、當籤者於四月初五日以前持原籤赴衛生局領賞過期其原籤即消廢無用

二、賞銀額

一等　銀五十圓　二等　銀十圓

三等　銀二圓　四等　銀一圓

第四回捕鼠抽籤當撰番號

一等	二等	三等					四等									
一五九三	一五八〇	二三四七	二〇九四	二二九三	二一九五	二五一一	二六五五	二五一七	一一九八	二六〇八	二一八三	二四六八	二一〇五	一三六〇	二六〇二	二六五三
	二四七五	二三一七	一七一三	一八九七	二四二三	一三二八	一七〇五	二〇八三	二四二二	二一三六	二五四二	一六六六	一六一九	二一四九	二二〇七	一七四一
	一七〇七	一四四七	一三八三	一六五七	一九三六	一九〇九	一三四五	二一六三	二二八〇	二九二八	一四七三	二五九一	一七四九	二二二三	二四八六	二五〇三
	一四四一	一四五〇	二〇八五	一七六八	二三九三	二一四二	一七四四	二二〇五	一四〇〇	二一八一	一三九二	一〇〇五	二九二三	一六二二	一九八〇	二四五八
	一七二六	二二八九	二五一〇	一九九〇	一七二〇	一九三〇	一二八三	二四〇九	二五五九	一四九二	二二四四	一五三八	一六〇五	一六四八	一五七五	二二九七

このわた新荷着　大原洋行　營口永世街第二八號

大阪商船會社 荷客扱所
内外 船舶代理店 船舶賃借仲立
水陸輸送貨物仲次　艀船人夫運搬請負
輸出入税關手續　倉庫業
諸品委托賣買
右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候滊船御乘船之御方樣は御一報次第切符持參仕尚御手廻り貨物持運ひ等當居迄迎組ニ御用仰付被下候ヘハ迅速確實ニ御取扱可申上候
西北街　德重洋行

營口慈善收支決算表

一金參千貳百零貳圓六拾八錢也　總收入高
内譯
金六百六拾貳圓四拾四錢也　臨時寄附金
金貳千五百圓也　觀覽券寄附
金四拾圓貳拾四錢也　慈善菓子販賣益
一金貳百六拾四圓參拾錢也　總支出高
内譯
金貳拾貳圓五拾錢也　印刷費
金貳拾參圓也　準備費
金貳百拾八圓八拾錢也　開場借入諸費
差引
金貳千九百參拾八圓參拾八錢也
右之通りニ候也
三月廿四日　岡山孤兒院事務員　入江大九郎

法律事務所の開始

生儀前ニ判事并ニ地方法院長等の官職に歴任し及び辯護士の職務を行ひしこと多年今回民刑訴訟の代理刑事被告事件の辯護訴訟事件の鑑定契約書起案法律顧問等總て法律に關する諸般業務の依頼に應ず
營口永世街金城館南鄰り
從七位勳六等 小林一生
小林法律事務所
○但し應接時間は午後四時限り夜分の面會は絶對に謝絶す

營口郵便局東隣　島田洋服店
新民屯停車場前　同支店

料理部開業披露

弊館是迄旅館專業に御座候處今般新に料理部を開設し聊か紳士諸君の御引立に報ひんと存候就て試座敷向き等も凡て改築仕日本式の粹を拔き藝妓仲居も弊店付とし内地より二十五名計り呼寄せ特に料理は東京有名の厨士を聘し材料に乏しき當地にては不可得珍味佳肴を供すべく一切の準備相整愈ゝ本日より安直を旨とし開業仕候何卒賑々敷御來遊の程偏に奉希上候

追而料理部開業と共に旅館部にも改良を施し御客樣の御便利御計可申候間不相變御引立の程願上候

旅館 第一營口ホテル
料理 第一樓（電話八四）

森病院
一診察　自午前八時至正午十二時　自午後三時至午後五時
一往診　午後三時より
△患者の入院治療を諾す
△貧困患者の施療は正午十二時より一時迄
姙婦の入院を諾す（取扱主任産婆大道しげ子）
院主 森 鐵
醫長 鈴木昌平
營口永世街（電一五五番）

和洋會席御料理
一弊店の特色は座敷廣くして大宴會に適當なり宴會の時は舞台に造附且又會費等は特に割引大勉强仕候
營口永世街二本町　日本館（電話百三十）
各位樣

料理 滿月 平の町（電一六二）
滿月支店 平安町元都橋跡
店主 吉木勝吉

會席料理 三日月 營口警務課前南へ

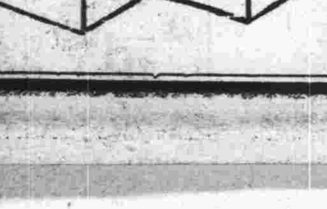
昨夜出火の際は遠路態々御見舞被下難有奉謝候混雜の際御高名伺洩れも可有之乍略儀紙上を以て御禮申上候
明治三十九年三月廿七日
三井物產合名會社 牛莊支店

東永茂　潘玉田

昨晩適遭同縣豪諸公辱臨倉卒間未及詳悉姓名甚爲抱歉伏祈原宥佈達謝忱
三井洋行
東永茂　潘卞田　謹啓

御旅館 豐陽館　上海（電話一〇六番）
日本郵船會社荷客取扱
歐米滊船乘船取扱
館主 米田藤吉

北京 扶桑旅館　東單牌樓大街路西
客室清潔料理鮮新

御手輕料理
一釜飯御一人前　銀五十錢
一湯豆腐一鍋壺　銀二十五錢
一突出しの外は御注文なければ差上不申候
月　日

營口元神廟街二〇九號　翁亭

材木
荒物
販賣

營口永世街第一八四號不野町
秋田洋行
本店 下關 秋田寅之輔商店

CARTRIDGES.

We have just received a large assortment of Sporting Cartridges for 8, 10 & 12 bore Guns which we are prepared to supply at moderate prices, cash with order.

Apply to,
BUSH BROS.

獵銃彈新荷着
第八、第十、第十二號獵銃彈新荷到着廉價にて販賣致候間多少に拘はらず御注文被下度候
但貸賣一切御斷申候
ブッシ商會

本家 日本東京神田鍛冶町 堀内大藥房

あさだあめ
淺田飴

肺癆痰喘氣急傷風痰嗽小兒風癢病後體弱肺病一切立見奇功
◎たんせき一切◎肺病の特藥◎ひきかぜ◎病後のよわり◎弱き人の滋藥

有名賣藥醫藥醫科器械卸小賣
永世街 東瀛大藥房
房主 藥劑師中馬龍造

Yano & Co.
矢野洋行
Telephone No. 137 電話一三七

諸雜貨、家道具類、呉服反物、蒲團類、婦人用小間物、下駄、足袋、食料品、其他種々

今回新荷着致候間直段ハ極安價を以て御用に可應候に付何卒多少に不拘御用命の程偏に奉願上候

謹言

清國營口二本町二五五號
主任 鹽川峯吉 (電話一三六番)

發賣
料木標子木板
塩川商會
遼陽小西門内 鹽川商會
●建築用材北海道產松大角(自廿五尺至三十尺)一万立方尺餘
外に電柱用材杉丸太長(自二十尺至三十尺)八千本
右之品多少に不拘特別安價を以て差上候條御入用の御方は御來臨被成下度候也

醇良自釀清酒

牛莊港東營口
宅合名會社
營口支店

札幌ビール
朝日ビール
口付莨大和
酢醬油瓶詰樽詰
菓子罐詰色々
洋酒類
右取次販賣

大日本東京
本山崎帝國堂藥房處修舖

腦丸
天授者天下多多有咳嗽藥中之冠也たんせき、ねつさましの一切の妙藥
天椶
腦丸者天下唯一之腦病靈藥也腦病の名藥にして他に類なし

大清國 營口大街(永世街二本町)
藥司洋行 淺野爲三郎
藥劑士
福壽堂 大藥房
醫械藥有名靈材藥 總發賣處
總批發處

旅人宿 東館
大連市信濃町卅九號地
特別ト親切ヲ旨トシ且ツ廉價ニ御取扱可申候

石材、碎石
並に自家製造
瓦、煉瓦 廉價販賣
營口元神廟街四十號第二號
順吉洋行

雜貨 すし米
醬油 清酒 大樽半樽
木炭
營口西北街
阪神組

稅關手續
一船舶代理
一貨物取扱
一委托販賣

幣公司昨年開業以來引續キ營業罷在候處今般業務ヲ擴張シ艀船、市內貨物運搬及貨物保管等確實敏速ヲ旨トシ殊ニ爲替付荷物及諸雜費等御依賴ニ應シ御立換可仕尚其他精々御便利ヲ相計リ可申候間倍舊御用仰付ラレ度願上候也

綏定門街第五〇
營口英國領事館東首
三仁公司 (電話一五〇號)
小島榮哉

大日本政府特定
官製口付紙捲煙草
滿州一手輸入發賣
江副洋行
營口永世街

官製口付莨、文房具
和洋酒類
罐詰、菓子 白米
藥品、雜貨
醬油瓶樽詰 卸商
防寒具、安價販賣
營口西北街
㊉
豐生洋行
(電話十三番)

軍隊用雜貨
日用品雜貨
呉服太物類
化粧品類 卸小賣
陶器類
食料品類
其外新荷着精々安價販賣
營口永世街七十號(第二市場東)
石原商店

萬事勉强乘車乘船好位置
營口中央市場前
旅館 東京樓
店主 熊田兼次郎 (電話百七十八番)
即席和洋料理 東京樓支店 (電話四十四番)
西洋料理仕出し御需に應ず

M. Iizuka,
CONTRACTOR,
ARCHITECT AND CIVIL EGINNEER.

Plans and specifications made to order.

ESTIMATES SUBMITTED.
MODERATE RATES.
No. 151 Yuwansinmiao
Ying Kow

質屋營業
精々勉强御便宜相計り可申上候間多少に不拘御仰付け被下度願上候
營口南永世街憲第三十六號
北斗洋行質屋部

奉天日本旅館
瀋陽館
家屋宏壯清潔
接待優遇懇切
開放全時一聞業
奉天小西門外ナ街路北

御旅館
天津
芙蓉館
駐屯軍御用
並西洋料理

時刻

唐山至天津　上六、二三　上一一、二八
塘沽至北京　上六、〇〇　下一二、〇六
天津至北京　上一二、〇〇　下五、二〇
山海關至北京　上八、[illegible]　下六、四五
天津至山海關　上六、二五　下[illegible]
唐山至山海關　上六、〇〇　上一一、五八
山海關至營口　上七、〇五　下四、五五
溝邦子至新民屯　上三、〇〇　下六、五七

（保管可申候）
市場北三階樓 時計店ノ二階
宮原公司

永世街二本町二六九
楠屋
土木建築用鐵材料一式
其外鑄物諸般

營口豫報

昨日氣温
昨日の氣温　最高温度四十六度九　最低温度三十三度八
昨年との比　低五度八　低二度二

宮門抄

三十日　理藩院　光祿寺　八旗兩翼値日　戶部引見十四名　廂白滿八名　內務府十六名　黑龍江協領宜鏗額謝恩　貴州副將黎應昌謝恩　順天府奏京師得雪五寸有餘　傅嘉年徐承焜伺候召見　奎順請假十日　召見軍機　宜鏗額　傅嘉年　徐承焜　順天府遞封奏一件

奏議

戶部奏遵議直工賑要需准將現辦常賑等捐展限一年摺

奏爲遵旨議奏事直隸總督袁世凱奏順直工賑要需請將現辦常賑等捐展限一年以資接濟一摺光緒三十一年十二月十八日奉硃批戶部議奏欽此欽遵由內閣抄出到部查原奏內稱光緒二十九年秋間臣因順直各屬兵燹後元氣未復加以連年災歉民情困苦工賑兼籌款無可措奏請將部例常捐七項暫由臣直收捐一年並將賑捐各項核減一成按四成收捐其推廣職銜項戴仍以五成核收暨請准收翎枝捐項並將十成貢監收款暫准截留濟用等因奉旨允准嗣因限滿經臣查看情形礙難停止奏請接辦一年經部議准於光緒三十一年二月十三日奉旨依議欽此欽遵辦理在案茲據賑撫局司道詳稱此項捐輸自光緒三十年十月初一日展限之日起除封印日期扣至本年十一月初一日又屆一年限滿本應依限停止惟查直隸爲缺額之區向來籌辦工賑事賴勸捐濟用一載以來竭力籌勸所收捐款仍復寥寥各省墊解之項尚難歸補而本省新增出款如救濟關外難民經費永定河善後工需另案修費以及教養局習藝所建造工廠收養貧民等項甚鉅皆取給於賑款業已羅掘一空本年直省秋收雖尚中稔但津河各屬間有被旱成災之區必須酌量撫恤滄州青陽一帶又因九月間海嘯爲災小民蕩析離居困苦萬狀自冬徂春爲日方長尤須寬籌接濟方不致流離失所而年例應辦工賑平糶米糧等事在在需款擬將常賑等捐再展一年等情詳請具奏前來臣查順直兵荒以後災歉頻仍辦工辦賑並救濟關外難民動需鉅款本省創設教養局習藝所開辦經費亟無他款可籌不得不取資於賑款而平糶一項常年設局所費更屬不貲此項常賑等捐委實難以停止合無仰懇天恩俯准將常賑等捐再展一年俾資補救如蒙俞允所有收捐成數核獎章程悉循其舊仍由統捐局照案核辦等語臣等伏查光緒三十一年二月間臣部議覆直隸總督袁世凱奏順直工賑要需請將現辦常賑等捐展限一年等因奏准行知遵照在案茲據直隸總督奏稱順直兵燹以後災歉頻仍辦工辦賑並無他款可籌不得不取資於賑款此項常賑等捐委實難以停止擬請將常賑等捐再展一年俾資補助等因臣部查該督所奏自係實在情形擬請准如所奏再行展限一年俟一年限滿卽行停止恭候命下卽由臣部行知遵照所有遵議緣由謹恭摺具陳伏乞皇太后皇上聖鑒謹奏奉旨依議欽此

北京電報

●德使晉謁陛辭　駐京德欽使穆君於西本月二十三日晉謁兩宮請假不日赴日本云

●肅王巡遊蒙古之期　肅親王巡遊蒙古一事日前議定而未啓行聞刻已定於西四月啓程云

東京電報

(以上西三月二十五日發)

●日皇優恤災民　此次臺灣地震之慘劇日皇深勞軫念特派伊藤侍從武官至罹災地視察其詳細情形並設立救濟震災院以賑恤窮民云

●俄由海路撤退兵隊　此次俄國欲送還由滿洲撤退兵隊於痾德沙先搭載若干名於義勇艦隊瀛船儻波夫號刻已由海參威到長崎矣聞嗣後滿洲撤退兵之由海路送還痾德沙者不下十萬人云

●駐奧牧野欽使回國　駐奧日本欽使牧野君於西本月二十五日回國一直晉京聞不日即拜優旨陞任文相云

●長谷川司令官晉京　韓國駐紮軍司令官長谷川大將爲參列凱旋大操不日晉京云

●英國大使擬回國　駐日英國大使馬君於西六月三日啓程就回國之途云

●滿洲賽會後聞　據日前大坂商業會議所議定云滿洲賽會自西八月一日起至十月抄以三個月間爲開會之期出貨者自西六月一日起至月抄於一個月間可知照辦理云云

●日皇儲親臨進水式　此次日本擬舉行軍艦生駒號之進水式日皇儲親臨舉行盛典定於西四月五六日發駕東京云

中外要聞

●工部發放陵帮銀兩　聞工部節愼庫奉堂諭開庫發放東西陵帮貼之款並二月分司官及聽差役津貼等款共發銀六千九百九十一兩零所有應發續發各廠之款俟戶部撥銀解到定期發給云云

●紳董公立閱報處　正陽門內兵部窪匾担胡同土地祠內各紳士公資公立閱報處一所每日備辦茶水定擬二十八日先行開辦俟聘有文明之士再行演講各報以便開通風氣云

●東省行墟分爲三等　聞戶部擬准東省行墟票地認充不一更替靡常豪强者得以鑽營謀奪各堂定准分爲三等上等每畝輸穀二石中等輸穀一石五斗下等輸穀一石所輸之穀撥歸社倉應飭地方官經理現已咨行該省矣云云

●華董致函工部局　上海租界新舉中國領袖議董吳少卿曾於初六日函致工部局西董略謂目下納稅人集會之期將近設立華董一事屆時貴局例當佈告故特將設立華董之緣由及宗旨先行呈告以供台覽　一此項華董係代表租界內中國匯業及各商家一切利益者各董皆由商界中推舉與官場無涉　二華董之權限祇爲華商代表料理交涉使租界安寧若工部局欲改良章程或添立新章當未經施行以前須與華董商議華董非欲要求治權亦非有干預納稅人權限及義務之意　三設立華董之宗旨　甲時與工部局往來商議俾中外人民交受其益　乙關於華人特別利益之問題得以通達意見　丙華人如有未能滿意之處可由華董轉告遇有艱難問題亦可由董事直達　丁增中外人之信心及交情以免誤會以後此項華董祇稱代表董事而除去以前辦事之名

●籌議江西教案辦法　探聞外務部王大臣以此次江西教案實爲從前交涉以來所未有不得不爭先著因連日與駐京法使呂班君交涉請其將肇事情形先行電達本國政府該使已允照辦又聞江西同鄉各京官近接本省紳士電述情形連日亦在集商對付之法云

●倫敦中華會館來函　英國坎畢利芝大學校於考取學生時向例有臘丁希臘及耶蘇經等書華人游學英國者深苦其難而肄業此校者遂覺寥寥僕深惜之舊歲力爭其事頃得報告知華人已免考(指進校考)上列三項學科以華文英詩理學代之足見校長體貼之厚以後華生願來者不必畏難而退深恐國內同學未及洞悉請即乞列入報端以廣佈告爲幸至該校爲環球學問家萃聚之區近更於各種專學外加設政治理財等專門此人人能言之不復多贅

●鄂都統撫輯難民　黑龍江程留守以瑷琿一帶地方被難華民甚衆日前奏派鄂都統前赴該處撫輯難民現已由外部照會俄使璞科第請電飭該處俄官照約接待云

●俄人代收營口稅數目　俄軍占領營口時曾將該處關稅代收聞除日前提撥之外尚存一百六十餘萬釐金十餘萬

雜報

●名利雙收　前夜啓文門內居民葉媼曾被盜刧次晨警監長胡璽亭帶仝劉姓巡捕捉獲該盜王印魁到案盜夥馬小辮乘間將逃出東阜適遇巡捕孫振基一人擒獲聞馬軀强壯孫體單弱以弱捕强不啻暴虎及縛執衙署軍憲嘉孫有胆勇當賞洋銀拾元昨聞又賞功牌四面以示鼓勵蒙賞者即警監長胡璽亭巡捕孫劉及前曾注功於簿之某巡捕等四人功牌而外尙每人賜銀兩元云云

●俄兵攫財　有驛行人由吉省來阜云於該省會見一燕人李姓者年二十餘賣藥就地列肆積有羌帖數十元貯皮筴中前夕收肆將歸不防皮筴露端於外突來一俄兵攫皮筴奔去李追逐數十武外將及該兵反手揮拳李輒飛起一脚顚兵於汚穢地云

●冰夾舢板出港　今晨九點鐘時有柴姓舟子載河北郵差二名郵信一箱搖盪舢板南渡未及數武竟被河冰夾擁西流頃入迅溜北岸人睍之束手無策轉瞬已杳尋出港外不知影响迨日夕時回一郵差云幸於河西攀岸二人幾被凍殭信箱已全浸濕該二人在彼看守速爲備衣送去待潮旋回云云

●河北來貨　昨由河北駁過大米五百餘袋亞梨六百餘包花生菓瓜子共一百六十餘袋幷有舟槽五隻均駁紙煙統四百餘箱白菜約有三萬斤云

●不戒於火　本月二日初更時警鑼喧衢人聲沸巷升屋瞭望東街双紅橋東烟焰冲霄火光明耀派人探訪乃東永茂南院機器油坊因燃煤油延焚樓屋幸人衆撲救折樓傾倒壓滅火勢更賴憲兵督率水會人夫駕駛水龍奮力直射火勢漸衰不然是夜西南風緊其焚如之災不堪設想云

NEWCHWANG, WEDNESDAY, MARCH 28, 1906.

A telegraphic warning against a storm was received from Chemulpo, Korea, by the local observatory late yesterday afternoon to the effect that, an atmospheric depression having appeared in Chihli Province, China, and threatening to proceed eastward, a storm might pass over the Liaotung and the Korean coast. The warning was at once communicated to the Customs authorities. It was also stated in the weather report which is daily submitted to the Administration that the temperature at Newchwang ranged on the 26th inst. from 4°.9 down to 2°.1 below zero, lower than the corresponding record of last year respectively by 7°.1 and 2°.1. "Cloudy with the south wind" is predicted for 24 hours ending at 5 p.m. to-day.

The calculating powers of the weather prophet are generally taken at a discount by the skeptic public, and the above statement is given for what it is worth.

The "Kwangse," Capt. Slate, from Shanghai *via* Chefoo and the "Wenchow," Capt. Ainslie, from Chefoo, both of Messrs. Butterfield and Swire came in yesterday, besides the two Japanese steamers "Daironaru" from Chefoo and "Nisshimaru" from Lungkow.

The "Kwangse" has brought in general cargo and 58 foreign passengers in addition to 281 coolies, of which class of passengers 1,273 more have been discharged by the other three.

Messrs. Jardine Matheson and Co.'s steamer "Tongshing" which was due at the port yesterday direct from Shanghai, is learned to have altered her course and touched at Chefoo, being expected here to-morrow.

3 of the 5 steam-launches under charge of the Administration were put out of dock yesterday and the remaining two are to follow them to-day, upon which a regular plying will be opened between Yingkow Station and Niuchiafun and the two jetties near the Quarantine Station.

We are informed that the Winter Amusements Committee have after all given up the idea of holding the last dance of the season this evening as has been widely rumoured, mainly owing to the absence of many ladies from the port. It is thought most likely that, if arrangements can be made satisfactorily, badminton will be continued for a fortnight or perhaps a month longer.

Newchwang society owes a good deal, we believe, to the tireless efforts of the Committee for relieving the monotony of the long desolate winter here with a series of evening entertainments as varied as they were enjoyable, attended on several occasions with unprecedented success.

The list of the guests staying at the "Manchuria House" yesterday morning was as follows: Captains D. T. F. Lawrence, T. H. Nuttall and Y. Saito, Messrs. J. Jaspersen, Tientsin, K. Burtorskoff, Tientsin, H. Pauls, Tientsin, A. K. Malvigne, Hankow, F. J. Bardens, Chefoo, and K. Fukuma, Liaoyang, besides Messrs. G. A. Tisdall, R. H. Lambeth, and Chas. Thunder.

The "Manchuria Daily Report" Office had a bad fire scare late last Monday afternoon. A big blaze was seen shooting up only 50 yards on the northeast from a two storeyed werehouse within Messrs. Tung Yung Mao's (東永茂) compound. In spite of the heroic exertions made by the Japanese fire brigade that had promptly answered the alarm, with the assistance of a large number of the employees of both the Chinese firm and Messrs. Mitsui and Co. adjacent on the south, the raging flames fanned by the fresh south wind made rapid headway, and, after practically razing to the ground the spacious godown 120 ft. by 30, vented their unmitigated fury upon the piles of beans standing near by, before being put under control in about an hour and a half. It is believed that the defective flue again had somehow allowed the oil baskets stored upstairs in great numbers to catch fire and this accounts for the good start the outbreak had had before its discovery. The loss is estimated at about $12,000 for the building and its contents and $4,000 for the beans.

We understand that a sum of Y. 500 has been offered by the two firms referred to, as a mark of grateful acknowledgment for the able services rendered by the fire brigade.

The Bank note has come up to par with the gold species again.

營口旅館料理店案內（いろは順）

旅館料理　第一營口ホテル　元神廟街九十六號

旅館　第二營口ホテル　河岸通り

料理　第三樓　元神廟街三十二號　店主　粕屋忠兵衛

料理　入船亭　永世街百八十三號　谷　初次郎

旅館　日營ホテル　河岸通り　店主　井上　源吉

料理　東京館　永世街八十六號　店主　村上京四郎

旅館　東茂旅館　西北街百七十三號　正金銀行西三程

料理　千鳥　元神廟街百三十三號　店主　吉住　善藏

料理　沖の島　永世街百六十五號　店主　中川彌三郎

料理　吉野亭　永世街八十六號　店主　坪田　正好

旅館料理　高砂ホテル　高砂亭　西北街　店主　片山小みつ（電話一四五番）

旅館　竹村館　永世街二十二號（電話五一）　店主　麻田　久二

旅館　大和館　永世街三十四號　店主　前田九一郎

料理　滿洲樓　南永世街第十號　店主　直塚　勝一

料理　萬梅　豐濟門街第百〇四號　店主　田島　彌助

料理　まんなをし　永世街字二本町二百五十九号　元吉田屋跡　店主　和田　常松

東京　生蕎麥　一式　東庵　元神廟（電話百五十九）

旅館料理　金城ホテル　永世街百六十六號　第二金城ホテル　永世街百六十六號　店主　齋藤富次郎

料理旅館　醉花園　澁谷旅館　永世街百二十七號　店主　澁田　留吉

料理　喜樂亭　營口元神廟街

旅館　東雲旅館　永世街七號　店主　谷口今朝太郎

營口軍政署御用旅館　東雲　主任　谷口今朝太郎

さるそば　第一更科　營口元神廟街
さるそば　第二更科　永世街鶴の湯角

御料理　柳亭　叮嚀專一　豐濟門街二三　店主　玉岡　益人

御料理並ニ溫泉　一力　營口永世街　店主　堀　万助　毎日新湯

和洋料理　松月亭　本店　營口元神廟街一四三号

和洋料理御旅館　滿洲ホテル　支店　遼陽西街西門一一七号

遼陽旅館料理屋案內

旅館料理業　營口ホテル支店　主任　井上　源吉

御料理會席　菊水館　主任　朝枝　園抛

旅館西洋料理　遼陽館　主任　永瀬　宇吉

旅館料理業　公陽館　主任　宮川　秀基

御料理會席　末廣屋　主任　山根初之函

御料理色々應御注文　凱旋亭　主任　古谷庄太郎

旅館御料理　遼塔ホテル　主任　木村　常吉

遼陽兵站司令部指定ホテル　遼陽倶樂部　營口東雲館支店　主任　谷口今朝太郎

御料理會席　玉家　主任　西野治三郎

御料理會席　來々亭　主任　石田　清

遼陽城內東街　一和洋御料理　遼東館
本館は遼陽城內第一繁盛の地にあり內外人往來頻繁なり今般四方紳士諸君の御勸に依り宏莊美麗なる日本風の家屋を新築致し一百人以上の宴會等も出來得へく廣間も御座候に付ては續々御光來被成下度花客諸彥に對し親切叮嚀を旨とするは弊館の特色に御座候

奉天旅館料理屋案內

旅館　奉天館　奉天城內鐘樓南大街　奉天軍政署指定旅館（電話一五）

和洋御料理　日清倶樂部　奉天大南門裡大街（電話一四）

商人御定宿　瑞豐館　奉天小西關大街北側　館主　河野嘉吉（電話　號）

旅館　天神館　奉天小西關大街北側　館主　荒川一松

旅館料理店　日の出樓　奉天小西門通（元紅葉館跡）（電話七號）

旅館料理店　日盛館　奉天小西關大街南側　館主　入江熊男（電話　號）

旅館料理店　梅松館　奉天城內灰市街東華門宮殿東側（電話　號）

旅館料理店　大和館　奉天大西關高臺子廟前　館主　今井コノ

旅館　大正館　奉天小西邊門外十間房道北側　館主　大草村行
奉天に於ける日本風新築家屋は弊館より外に無之特に夏期御宿泊には最も適すへき樣に相成居候間御投宿の節至極便宜に御取扱可申上候以上

旅館兼料理店　高砂館　奉天城外十間房第十五號
奉高館　奉天城外廿四號高砂館支店　館主　宇本智平

旅館料理店　日奉館　奉天小西門外大街　館主　原田清五郎

高等旅館　東洋館　奉天大西門外小什字街（電話　號）　主任　藤島初野

御料理　梅ヶ枝　奉天小西門より一丁西の辻北入　館主　辻井ムメ

旅館料理店　勉強館　奉天小西關外北長發園隣

撫順炭大販賣　多少に不拘御用命被仰付度願上候　金城館販賣部

特別室落成　營口金城ホテル旅館部

藝妓仲居新來　金城館料理部

奉天小西門外　會席御料理　高等御旅館　金城館

一關內外蘆漢鉄道貨物運輸（但シ營口新民屯間ノ鐵道輸送ヘ特ニ充分ナル御便利ヲ圖リ可申候）
一海關手續（但弊店事務所及郵船會社代理店內派出員ニテ事務取扱）
一鈔關手續（但西營口鈔關裏手東玉昌方ニテ事務取扱）
一船舶貨物取扱
一其他水陸貨物運輸ニ關スル諸業
右營業仕候間陸續御用仰付被下度願上候
營口西北街第二七二號　大清通運公司營口支店

旅館料理屋に對する酒肴料其他不拂の御方は此際御拂込み相成度萬一督促再三に及ふも尚ほ不拂の御方は其姓名を掲け新聞紙を以て請求可仕候間豫め御承知相成度右は同業者協議の上及廣告候也
營口旅館料理屋同業組合

歐米各國最新流行形　西海洋服店　永世街一四一（森病院三軒目）（電話百二十七號）

新着の御知らせ
東京より
蜂印香竄葡萄酒、羊羹、味付海苔、旅行用トランク、手提鞄、御婦人足袋、謄寫版、眞筆版、コツピープレス等
其他
雛立印白酒、寄木細工、漆器、陶器、金屏風等夫れ〲產地より着荷仕り候
新到
各種皮包、皮箱、文具格、畫掛、畫漆茶机、畫漆茶盤、金漆畫屏、金漆鏡臺、眞筆版、謄寫版、極上麝香水、蜂牌香竄葡萄酒、
營口　加藤洋行（電話八十番）

弊局土木建築材料品の各產地と特約を結び廉價を以て多少に不拘賣却仕候間御引立の程奉希上候
一北海道產松大角材外種々
一石灰、石材、敷石、碎石、煉瓦等
一日本石炭數種
營口元神廟前　飯塚工程局材料部（電話百三十五番）

○上等石炭　一噸に付　銀十六圓
○上等日本米　一石に付　銀二十圓
○板材木　○木炭
○亞鉛板　○洋釘
○干塩魚　○石灰
卸小賣致候間御用の御方は御通知次第直に持參可仕候也
喜久洋行　永世街八十號（電話百五十二番）

大連　東洋ホテル　大連鐵道停場附近民政署前兒玉町

發賣　標子　木板　料木
營口青堆子　清水寧木局（電話九十四番）

故沖禎介
追悼の爲め江湖諸賢より玉はりたる詩歌書畫を編集し上梓して一の紀念帖と爲し度き旨同存父沖莊藏氏より通知有之候就ては其紙數を一葉にても多からしめ以て存亡父子共の光榮を大ならしめ度く存候間廣く江湖の同情を得度廣告候也
一、紙判は美濃紙大
一、刻版は四月中に取かゝる事と存候
一、沖莊藏在沖繩縣那覇地方裁判所官舍
御問合の件あらは左に
新民府奈良崎八郎
大清通運公司安田貞藏
營口瀛華學院上野政則
同志友人敬白

爲替券無効廣告
清曆本年正月二十二日弊號は在阿什河和順昌に於て本年二月二十五日營口にて支拂ふべき爲替券即該號昌字十七號永記名下銀五千三百五十兩仝十八號功記名下銀二千六百七十五兩の二通を買受け去る二十二日阿什河より合盛信局に托し送附の途中之を紛失せり依て直に該營口分號へ此由を說明し以后該券發見するとも無効に御坐候間此段廣告候也
營口　永同和主人啓

爲替相場（三月二十七日）
日本向　一百圓五十錢（軍票百圓に付）
上海向　七十一兩二十五錢（同）
天津向　一百〇二圓五十錢（百弗に付）

日本品最近物價表　加藤洋行
一紙類
一半紙　一〆　二圓九十錢より三圓廿錢
一美濃紙　一全　七圓五十錢
一狀袋　二十枚綴　三錢二厘以上四錢
一全　百枚　十三錢以上十八錢
室內裝飾品及寢具　矢野洋行
一蒲團　三枚組　六圓九十錢以上六十五圓
一疊　一枚　二圓六十錢以上三圓
一薄様　十枚　八圓
一麻緞通　一疊敷　三圓

MANCHURIA DAILY REPORT.
Subscription 8 cents　4 cts. a copy

本紙定價
一枚ニ付　銀四仙
一ヶ月前金　銀八十仙
半ヶ年前金　四弗八十仙
一ヶ年前金